恒例！6の日行動

【1面から】　各候補が「選択的夫婦別姓」「学校給食無償化」「健康保険証廃止見直し」「政策活動費廃止」などの施策を打ち出していることに言及。「これらは多くの国民が署名運動も行い、私たちも国会、地方議会で質問、要請してきたもの。自民党が散々『できない』と言ってきたものだ」と事実を話し、こうした施策は「みなさんと一緒に要求運動に本当に取り組む日本共産党を伸ばし実現させよう」と訴えました。

白川氏は「四国から新たな政治をみなさんと共につくっていきたい」と語り、21年ぶりの日本共産党の衆院議席奪還にむけ支援を呼び掛けました。

高松市で6日、香川革新懇と九条の会かがわは「戦争は最大の人権侵害」や「大軍拡NO」などの横断幕やプラスターを掲げ6の日の行動をしました。

たなべ健一日本共産党東部地区委員長は、裏金問題では国民の怒りがいまだに収まらない一方で、岸田政権が退陣を表明し、総裁選が開かれていることにふれ、「候補者9人のだれもが、裏金問題がまるでなかったこと、終わったものかような態度だ。『国民には増税、自民党は裏金』というのは許されない」と強調しました。

また、上がらない賃金と物価高、主食のコメが店頭から無くなったことを指摘。「農業を犠牲にしてきた自民党政治が減反政策をすすめ、主食すらまかなえなくなっている」と訴えました。

自公政権がアメリカと一緒になって戦争する国づくりを進めていると批判。「この6の日行動や、市民と野党の共闘の原点は立場の違いを超えてこの戦争国家づくりに反対し、集団的自衛権の行使容認を認めた安保法制の廃止や立憲主義を国民の手に取り戻すことにある」とのべました。

その他に十河浩二香川憲法会議事務局長と三野ハル子社民党県本部代表がリレートークをしました。

シリーズ「わが町は今」

三豊市議　岩田秀樹

三豊市は、2023年12月第2次総合計画を出した。最重要課題である「持続・発展し続けるまち創造」を目指し、人口減少対策を目的とした施策を重点に実施している。三豊市の合併時の公共施設総数は466施設であったが、これを更新費用がないとの理由で、半減しようとしている。

中でも大きな課題の1つは、小中学校の統廃合問題である。10年前に出された「三豊市適正規模・適正配置検討委員会・答申」の見直しが進み、豊中町では住民説明が十分に行われない中、この無謀な計画が決定・強行された。5校が1校に統合され、生徒数572人の豊中小学校建設が（令和8年4月1日開校）で進められている。

道路整備及び通学路の安全確保の問題や、生徒の約半数が通う学童保育の問題、自治会ごとの対応となるスクールバスの運営など多くの課題が残されており、住民には方向性がいまだ明示されていない。このような、住民との合意形成をおろそかにした拙速な進め方は認められない。

この間、住民の中で、「地域の学校を守る有志の会」を結成し要望を伝える取り組みを行ってきた。問題点を明らかにし、計画の見直し、撤回を求めて取り組んでいる。

他方で、三豊市の産業は、農業が基幹産業と位置付けられている。しかし現在、農地面積8200haのうち、2300haと1/4が耕作放棄地となっている。

三豊市は、今年3月「オーガニックビレッジ宣言」を行った。この宣言により、今後学校給食に地元産有機米や有機野菜を導入することから始め、地場産麦作りの検討も行い、耕作放棄地解消にもつなげていきたいと考え、活動している。

また、年金者組合三豊・観音寺支部の取り組みとして市長交渉を行い、「帯状疱疹予防接種費用一部助成」を実現させた。8月1日から、50歳以上の方が対象である。（詳細は各支所で）

来年度、三豊市は合併特例債が終了し、普通交付税が減少する中で、実施事業の見直しで、「給付型奨学金制度」、「中学校体育館冷房施設設置」を取り組んでいる。さらに、切実な声の上がっている「学校給食費の無償化」を実現させるために、住民のみなさんと共に頑張っていきたい。

地球の息吹⑧

栗林公園の大禹謨（だいうぼ）　下

瀬戸海　大地

一五九六年、遠州浜松で生まれた西嶋八兵衛は、土木技術と行政に優れた手腕を見込まれ、一六二五年に讃岐生駒藩の客臣として招かれました。

「西嶋八兵衛の来讃」

「満濃池の改修」

空海により改修された満濃池は、一一八四年の洪水で決壊し約四百五十年間、池は廃止され池敷に村が存在する状態でした。八兵衛は満濃池を近代まで有効なものに改修したのをはじめ、九十余のため池の築造、増築を行いました。

「香東川の付け替え」

香東川は石清尾山をはさんで東西に分流していたため、高松はしばしば洪水に襲われていました。八兵衛は氾濫をなくすために、東流路を締め切って現在の西の流れに一本化する「付け替え事業」を実施し、旧流路には農地を開きました。

「大禹謨の変遷」

事業が一六三七年に竣工した頃大野村の堤防に治水を祈願して石に「大禹謨」と自ら書いて地中に埋めました。栗林公園は、この事業を行う前は香東川敷地でした。改修に併せて、豊富な伏流水を利用して築庭する条件が整えられました。

（香東川流域図：ミツカン水の文化センター資料）

その後、約三百年この石は忘れ去られていました。香東川洪水後の一九一二年、河川改修工事の際に大野中津の住民に拾い上げられ、薬師堂の隣に安置されました。一九四五年、郷土史研究家により石が見出され、三文字の意義や筆跡鑑定も行われました。一九六一年には、適切な保全のために香東川に因んだ栗林公園に遷座され現在に至ります。

禹王、空海、八兵衛の系譜は、自然科学の視点をもった土木技術者であり、人民の生活の安定を図るための治水・利水事業を献身的に行なったことです。

地球環境危機が喫緊の課題である、現代社会の為政者に求められている資質・能力でもあります。

勇気りんりんエッセイ

四国ブロック国政対策委員長　白川よう子

残暑厳しきおりですが、「総選挙勝利四国キャンペーン」が続いています。

16日、香川県で田村智子委員長を迎えた演説会が行われ、私も選挙区予定候補とともに訴え。「比例は日本共産党」の大波で、四国から今度こそ国会へ！と思いが一つになりました。

演説会終了後の「入党懇談会」も、入党決意者がうまれる度に拍手が沸き起こり、総選挙勝利のため知恵や力を合わそうとの決意がみなぎりました。30代の方は演説会に間に合わなかったけれど…と懇談の最後に駆け込みで参加してくれ、決意。特に大軍拡の問題や、外国人の人権を守らない政治のおかしさに疑問を持っていると。お誘いした女性後援会の皆さんも大感激で、涙涙の嬉し涙。私も思わず嬉しいもらい泣きでした。

19日、徳島の職場支部で新しい仲間を迎えました。支部の皆さんが人間関係を大切にして、職場の仲間の悩みや喜びに向き合った活動を続けていることが、私にとっても大きな励みになっています。

翌日、徳島駅前で恒例の早朝宣伝の後、徳島のみかんの産地、勝浦町へ。勝浦なら涼しいかも？という淡い期待は一気に打ち砕かれましたが、暑さに負けず、新しい仲間が増えました。

小松島市でも、熱中症に気をつけながら、後援会訪問。「総選挙が近いと思います。JCJ大賞の赤旗日曜版もお読みください」とお願いすると、「いいですよ、頑張って下さい！」とのお返事。

選挙戦を真正面にすえながら、党を大きくして、勝つたたかいへ！